平成25年10月

農家の皆様へ

**大豆における“アサガオ種子”の混入について**

近年、大豆のなかに“アサガオ種子”が混入しているというケースが、大変問題となっております。

“アサガオ種子”には毒性があり、大豆に混入したまま流通してしまいますと、流通先からのクレーム対象となってしまい、**多額の処理費用**が

かかるほか、誤って消費者の元まで届いてしまいますと、**重大な健康被害**へとつながってしまいます。

つきましては、農家の皆様にはくれぐれも“アサガオ種子”が混入しませんようにご注意していただきますよう、よろしくお願いします。

なお、以下にアサガオの特性等についてまとめましたので、ご参考にしていただきますよう、よろしくお願いします。

～　アサガオの特性　～

・種子が大きく発生深度は１０ｃｍ程度と深い。そのため、４月中旬から１０月中旬まで発生する。なお、アサガオ種子は硬く、容易には発芽しない（硬実性）のため、１年程度の潅水条件にしても死滅しません。

**ちなみに有効な土壌処理剤はありません。**

～　主な対策　～

１．早期に手取りをし、花が咲くまでに防除。**（実をつけさせない！）**

２．周辺の畦畔や圃場でみられたら注意が必要。

３．堆肥を使用する際には、なるべく熱で種が死滅している完熟堆肥を使う。**（種は熱で死滅します。）**

茨城県食糧集荷協同組合